

P 15

〔タイトル〕 EL-4 腫瘍細胞に対する
ABPC の in vivo 抗腫瘍効果

○海野有紀 加藤真理亜 小池泰介 中村仁美 古
我匠 平間稔 堀内勲 (株式会社 応微研)

〔目的〕 ブラジルを原産地とする担子菌 *Agaricus blazei* の抗腫瘍効果については広く検討が行われているが、その機能性をより高める方法に関する研究はまだあまりなされていない。当社で開発した ABPC (*Agaricus blazei practical compound*) は *A. blazei* の有効成分を効率良く体内吸収させるために酵素処理を行ったものである。今回は EL-4 マウスリンパ腫細胞に対する ABPC が及ぼす効果の比較検討を行った。

〔方法〕 披験物質として ABPC (400mg/kg、800mg/kg) 及びポジティブコントロールとして Krestin(1000mg/kg)を C57BL/6 マウスにそれぞれ経口投与した(n=10)。披験物質は 1 日 1 回連日経口ゾンデを用いて投与した。投与開始 8 日後(day0)に選択部に EL-4(1.5×10^4 cells/0.2ml/head s.c)を接種した。さらに 19 日間毎日経口投与を継続するとともに、ノギスにて腫瘍の径を測定した。20 日目に各群マウスを頸椎脱臼にて屠殺し、脾臓、胸腺及び腫瘍を摘出し、重量を測定した。

〔結果及び考察〕 ポジティブコントロールである Krestin 群ではコントロールの約 2/3 の腫瘍重量であった。それに対し ABPC 群は 400mg/kg 投与群、800mg/kg 投与群ともにコントロールの約 1/3 の腫瘍重量であった。即ち、ABPC は EL-4 腫瘍細胞に対して Krestin より優れた in vivo 抗腫瘍効果を示した。